



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

子どもの居場所 移転 市教委委託事業となりました。 月～金曜日、開いています。

2004年から継続してきた、「子どもの居場所」が「子どもの居場所づくり・学びの場事業」という日光市教育委員会の事業となりました。今後は「NPO法人 なんとなくのにお」が市教委からの委託により事業を行うこととなります。

一昨年秋の「報徳会館建てかえ」の話からおよそ1年半、居場所の移転について市教委と協議を重ね、その結果、新しい場所、新しい仕組みでの「子どもの居場所」がこの4月から始まることになりました。8年間の「なんにわ」の活動、そして会員のみなさまの支えが大きな力となり、今回の補助金から委託への移行が実現したのです。

新しい居場所は日光市平ヶ崎の自然豊かな環境にあります(周辺地図、開館時間などは、2ページをごらんください)。近くに田川が流れ、琴平山に登れば今市が一望できる所です。近くに芝生の公園もあります。家の中では、読書や音楽鑑賞、ゲーム、ペーパークラフト、木工などの道具もそろい、自由に過ごすことができます。インターネットへの接続環境も整備しました。お茶会、談話会、サイエンス・カフェなど、居場所を活用し、新しいスタイルで開催していけるのではと思います。

場所や仕組みが変わっても、「子どもたち一人ひとりの自主性が尊重され、明るく生活でき、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりと学びの支援」という「なんにわ」の理念は変わりません。これからも、みなさまのご援助、ご協力、そしてご助言をよろしくお願ひいたします。(手塚)



報徳会館の桜 (2013年4月5日)

花王ハートポケット、とちぎコープより助成金

3月10日、花王ハートポケット倶楽部助成金のプレゼンに行ってきました。社員の方々の投票により61票を獲得し、助成金3万円をいただきました。社員の皆様からの温かい励ましの言葉に、これからも頑張ろう!!と思えました。私たちの意見表明への感想を25人の方からいただきました。その中から紹介させていただきます。

■ さまざまな事情で不登校になる生徒、学生に向けて、教育は一本道でないことを理解してもらって、学ぶための選択肢は多様であるという環境を作り、その場を提供していく活動は意義深いものと考えます。地道に継続していただきたいと思ひます。

■ 発達障がい・不登校は、子どもを持つ親として、決して他人事ではないと感じますし、学校以外に居場所を作ろうとなされている活動には大変共感できます。ぜひ、広い世界を感じながら、居場所を確保し、安心感を与えるような活動を進められることを願っています。

社員のみなさまのご意見をしっかりと受けとめ、助成金は講演会を開催する費用に充てさせていただきます。

4月5日は、とちぎコープNPO法人助成金のプレゼンに行ってきました。その結果は、な・なんと、20万円も頂けることに… 新しい居場所で使う、スポーツ用品、教材など…早速、卓球台やホワイトボードの購入に充てさせていただきます。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。(兼原)

助成金の審査や表彰式への初めての参加でした。自分の中では「一人でも自分の道を見つけるお手伝いが出来れば」という思いで活動しているのですが、地道すぎてあまり評価を直接受ける機会がありませんでした。助成を受けられたことを、活動を認めて頂いたと受け止めてこれからの励みにしていきたいと思ひます。(西尾)

目次

居場所・移転、委託事業へ	1
花王、とちぎコープ助成金	1
居場所移転先地図	2
活動日誌	3
子育て・親育ち 茶話会報告	3
発達障がい講演会報告	4

2013年度 通常総会(第9回)

5月11日(土) 午後2時より、日光市民活動支援センターにて開催いたします。
終了後、新・居場所に移動し、お茶会を計画しています。
お茶会のみ参加でもOK。お気軽にご参加ください。

日光市

不登校児に「居場所」

NPO法人へ運営を委託

【日光】市は新年度から、これまで民間団体が行ってきた不登校の児童生徒を対象とした「子どもの居場所」事業を、委託で始める。同様の事業は、既に適応指導教室「若杉学級」で行われているが、新たな事業は学校復帰よりも、自主性を尊重し安心して過ごせることに重点を置くのが特徴。不登校児童生徒の支援体制が、強化されることになる。

(田面木千香)

子どもの居場所事業 週2日から5日に拡
は、NPO法人「なん 大、開設時間を午後0
となくのにわ」が20 時半〜同4時半とし
04年に始めた。現在、
学校への行きづらさを
抱えた子ども10人弱
が、スタッフとゲーム
をしたり勉強したり、
自由に過ごしている。
本年度からは利用しや
すさを考え、開設日を
徳記念館などを含む新
施設整備に伴い取り
壊されるため、場所の
確保も課題だった。
そんな中、「若杉に
通えない子どもも支援
したい」と、市が同事
業の実施を決断。同N
PO法人が受託するこ
とになった。

委託により、利用料
は無料に、スタッフの
人件費も確保できるよ
うになるため、「活動
基盤がしっかりするこ

とになり心強い。しっ
かりやっていきたい」

090・3227・
7079(携帯)

と同法人の手塚郁夫理
事長。新たな開設場所
となる平ヶ崎への引つ
越しを前に29日、片付
けを行ったため「協力し
てくれる方は連絡を」
と呼び掛ける。

子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)
日時: 毎月第2月曜日(午前10時~12時)
参加費: 300円(お茶代)
次回の日程はお問い合わせ下さい。
同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いたいよう。「一人で悩まず、みんなて!」を合い言葉に。(090-3227-7079)

写真:
引越しが終わってやれやれと一息
ついた4月5日。
新しい居場所の玄関です。
看板、どこに立てようか…



〒321-1262
日光市平ヶ崎522
「平ヶ崎接骨院」の看板を
入ったところ。駐車スパー
スはお尋ねください。

毎週 月~金
(12時30分~16時30分)
祝日は休みます
(夏休み中は火・金オープン)
費用負担はありません。
昼食は持参または実費で
お願いします
見学自由です。

電話 090-3227-7079
Fax 0288-21-2631
メール:
info@nantonakuno.net



☆ 活動日誌

- 1月20日(日) ベリー会：月例会
 1月26日(土) ベリー会：第2回ゲートキーパー養成講座 参加
 1月31日(木) 通信・なんとなくのひろば(第30号) 発行
 2月 2日(土) 講演会参加(宇都宮大)
 「発達障害のある人が地域で幸せに暮らすために」
 2月10日(日) ベリー会：第3回ゲートキーパー養成講座 参加
 2月25日(月) 日光市入札参加資格審査申請書類提出
 (総務部管財契約課契約係)
 3月 6日(水) 第50回 理事会
 3月10日(日) 花王ハートポケット倶楽部地域助成贈呈式
 3月11日(月) 茶話会(第38回)
 3月15日(金) いのくら児童クラブ「星を見る会」に
 「学びサポート」メンバ参加、彗星と木星の観測会
 3月16日(土) 子育て・親育ち茶話会
 「ん？うちの子、ちょっと心配？」と思ったら
 (小・中学校編)
 3月24日(日) ベリー会：月例会
 3月26日(火) 報徳今市振興会館での「子どもの居場所」最終日
 3月29日(金) 報徳今市振興会館よりの引っ越し開始(4月5日まで)
 3月31日(日) 報徳今市振興会館閉鎖
 4月 1日(月) 日光市子どもの居場所・学びの場事業について、
 日光市との業務委託契約成立
 4月 5日(金) とちぎコープNPO法人助成金審査会
 4月 8日(月) 新しい場所での「子どもの居場所」オープン



新・子どもの居場所 引っ越し直後の写真です。

居場所のひとこま

3月29日から4月5日にかけて居場所の引っ越しを行いました。荷物の整理や運搬には、多くの方々の協力をいただきました。机やイス、本棚なども、ワゴン車や軽トラックが活躍し、問題なく移動できました。日光市民活動支援センタースタッフの皆さまにもたいへんお世話になりました。居場所引っ越しに関わってくれた、すべての方々に感謝いたします。ほんとうにありがとうございました。そしてお疲れさまでした。写真は、すっかり片付き、掃除も済んだ、報徳会館の「居場所サロン」です。(T)



子育て・親育ち茶話会

「ん？うちの子、ちょっと心配？」と思ったら

小・中学校編 2013年3月16日(土) 午後1時30分～3時30分

アドバイザー：帷子頭二郎 さん(日光市教育委員会 発達相談員・臨床心理士)

報徳今市振興会館大広間を使っての「なににわ」最後のイベントになりました。

参加者6名の方からアンケートのお答えをいただきました。

1. 茶話会を何で知りましたか

- ① 知人・友人 … 0名 ② チラシ … 5名 ③ その他 … 1名

2. 印象に残った点や感想など

- ・子どもが自分の「怒り」を、あたまの中でメーターに描き、可視化する方法について
- ・みんな悩んで、いろいろ考えながら子どもと向き合っていることがわかって、何か自分だけじゃないんだなと、ホッとしました。
- ・先回りして何でもやってあげるとはあまり良くない事。
- ・親がゆとりを持つ気持ち大切。
- ・「自分を自分で支援できるようになることが大切」という、帷子先生の言葉がよかった。
- ・不安の渦に巻き込まれてしまいそうな自分と向き合うのがとてもしんどいと感じていた。たくさんの方のお話が聞けて、本当に参考になった。
- ・他の人の話が聞けてよかった。

3. 今後、勉強会でどのような話が聞きたいか。

- ・義務教育後の進路について
- ・みなさんの体験談
- ・夫婦で子育ての意見がすれ違うとき、家族でどのようにかかわっているのか。
- ・現場の先生の話

特定非営利活動法人 なんとなくのこにわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
http://www.nantonakuno.net/



発達障害のある人が地域で幸せに暮らすために ～ 更なる連携を目指して ～ 参加レポート

2月2日(土)「とちぎ発達障害研究会」主催
宇都宮大学で行われた研究会のレポートです。

午前は「今後の発達障害者の支援について」という題で東京学芸大学教授上野一彦先生の講演会が行われました。上野先生が初めの自己紹介の中で「60くらいになったとき、自分自身のLD度を知った」とか「学生にはLDパパと言われることがある」など、率直でやさしい話し方が印象的でした。映画監督のスピルバーグも去年、自身の学習障害を告白しています。映画監督として成功できた理由は、周囲のサポートがあったからこそと述べています。

上野先生は「天職」という言葉が好きだとおっしゃっていました。そして、日本は医者や教師の判断を求めすぎているとも。最後に「障害とは、理解と支援を必要とする個性である」と締めくくっていました。

理解と支援は、教育の中だけではなく、社会の中で社会参加していくときこそ必要になってくるものです。私自身も自分の生き方とも関連して、どんな支援ができるか、考え続けたいと思います。

最後に主催者の宇都宮大学 梅永先生が「今後も情報を共有していきましょう」という言葉で締めくくられました。(白井)

午後の部は2部構成。前半は「NPO法人いわて発達障害サポートセンター」熊本葉一さんの活動紹介。小学校教師で自閉症の息子さんを育てるなかで立ち上げた教師の会・親の会を通じ、街の協力者を増やしていき、街全体を自閉症の人が暮らしやすい地域に変えていくという実践をされています。「自閉症を理解してください」ではなく「この子を理解してください」とお願いしています、という言葉が印象的でした。

午後の部後半は「就業」をテーマにしたシンポジウムが開かれました。パネリストは以下4名の先生方でした。

とちぎリハビリテーションセンター小児科医 清水 純 先生
宇都宮圏域障害者就業・生活支援センター 瓜生 泰 先生
NPO法人 CCV 代表 福田 由美 先生
東京学芸大学 名誉教授 上野 一彦 先生

長い時間発達障害の子と関わってこられた上野先生からは、「中学校くらいから自分で稼いで消費する体験をしておく大人になって上手に消費が出来るようになり、退職や年金までつながる」という事や、余暇を生き生きと過ごせることも大切とのアドバイスがありました。その子の笑顔がみえることがその子にとっての本物という言葉には奥の深さを感じました。親として簡単なようで、中々そうさせてやるのは難しいものです。

瓜生先生は「発達障害の診断は受けていない人が多く、いろいろな支援はあるがうまく繋がらない」という現状を報告されました。受容が本人・家族・支援者がばらばらなので踏み込んでまとめるキーマンが必要とのことでした。(西尾)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会員について

正会員：46
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

報徳会館での「子どもの居場所」は2004年6月18日(金)にスタートしました。10年目で大きな変化をむかえた「居場所」の様子を、これからもこの通信に記録していきたいと思えます■通信第1号の発行日は2005年2月5日です。およそ4回のペースで作ってきました。編集には「Microsoft Publisher 2003」を使っています。「Word」より細かい設定が可能で、とても便利■ただし、パソコンとセットでインストールされている「Office」には含まれていないので、別に購入しないと使えません。この性能に匹敵する安いソフトはないものか、ご存じの方は教えてください。(T)